

第 2 回 四国中央市第 4 次地域福祉計画審議会 会議録

日 時 令和 8 年 3 月 1 6 日 (月) 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0

場 所 四国中央市役所 4 階 4 0 1 会議室

出席委員 大西 史郎委員 (委員長)、宮崎 さゆり委員 (副委員長)、山口 佐人委員、
藤原 弘之委員、藤川 和章委員、窪田 あゆみ委員、吉江 周作委員、高橋 尚子委員、
吉岡 賢治委員、石黒 忠則委員、藤田 貞子委員、秦 英治郎委員、小野 渡委員、
寶利 佳代委員 (委員 1 5 名中、1 4 名出席)

傍 聴 者 なし

事 務 局 福祉部長合田 晃友、生活福祉課長田邊 真二、課長補佐青木 重臣、課長補佐山川 桂子
工藤 野乃

リージョナルデザイン株式会社 安孫子 尚正、隅田 尚亮

次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) アンケート結果について 資料 1
 - (2) 地域福祉計画骨子案について 資料 2
 - (3) 計画の策定スケジュールについて 資料 3
3. その他
4. 閉会

議 事 録

2. 議事

(1) 市民・事業所等アンケートの集計分析結果について

発言者	発言内容
事務局	事務局による説明
石黒委員	市民アンケートの回収率が半数近いことから、地域福祉にある程度興味を持っていると考えられるが、結果を見ると、色々な福祉活動について内容、名称が知られていない。どのように知ってもらうかが大事だと思う。
秦委員	社会福祉協議会や民生委員の活動が知られていないことは悲しい。若年層で地域とのつながりが薄れてきていることが心配。地域単位で、人のつながりづくりの取り組みを始めるべきだと思った。
吉岡委員	市内の福祉介護サービスの満足度について、不満よりも満足が高くなっており、ひと安心。地域活動について、親世代や、祖父母世代が出ることが多く、小学校の P T A 活動以外でなかなか若者が地域活動に接する機会がない。若い世代の地域活動参加のためには、活動に積極的に関わられる環境を親がつくるのが大事だと感じた。ヤングケアラーについて、居住地区の気になること (問 1 3) では 0. 2 % の回答だった一方、福祉課題として (問 3 9) では 6 0. 9 % が重要視している。聞き方によって回答が大きく異なるため、結果の見極めが大切だと思う。

小野委員	アンケートで浮かび上がった課題は、複数の要因が絡み合っているため、それぞれの要因に対応する複数の制度を整備しないと解決は難しいのではないかと思います。身近に発生している買い物難民問題は、人や住居、商業施設を集めてコンパクトシティ化することでしか解決しないと思う。問題提起による意識の醸成が必要。
藤川委員	社明運動や再犯防止月間の認知度について 10代が最多だが、これには中学校に依頼している社明運動の作文が関係していると考えられる。しかし、20代になると極端に少なくなる。この状況の理由として、市民には受け身の方が多いのではないか。社明運動を含め、多くの人に声掛けを行うことで認知度向上、活動の参加者増につなげられると思う。
吉江委員	アンケートにおける社協認知度などの回答状況から、社協自身も広報活動の不足を感じた。公式 LINE は情報が埋もれてしまう状態。公民館を拠点とした情報発信等、地域単位で発信できる体制があるとよい。
宮崎副委員長	公民館だより等、各家庭に配布しているが見られていない。中学生・高校生のボランティアについては参加数、満足度ともに高いので、進学後もこうしたものに参加する機会が増えるとよい。また、先日こども食堂のイベントを地域の高齢者の集いと同時に実施した際に、多世代交流の場づくりのよさを感じた。
高橋委員	保育園で地域の方と子育て支援の利用者を結びつける活動を今年度から実施しているが、悩みを抱え、専門的な相談も受けられない子育て世代にとって、子育て支援の利用者同士のちょっとした交流が持つ役割を重要だと感じた。また、0歳児の一時預かりにおいては、一人で子どもを育てていて誰とも話せていない利用者にとって、職員へのちょっとした相談だけでも、気が楽になったとの声があった。自分たちの役割を認識しながら、大事に活動していきたい。

(2) 地域福祉計画の骨子(案)について

発言者	発言内容
事務局	事務局による説明
大西委員長	計画期間6年、基本目標1つ追加、2つの計画を包含することですが、再犯防止計画と、重層的支援体制整備事業実施計画については、法に基づく策定ですか。
事務局	法に基づく策定です。
山口委員	重層的支援体制整備事業実施計画については、縦割りの計画に横串を刺すようなものですか。
事務局	障がいや子育てなど、縦割りの各制度を横につなげて支援するというものです。
大西委員長	計画は今回のアンケート結果を踏まえて作成する、という理解でよいですか。
事務局	アンケート結果を踏まえ、基本項目に従って作成します。
藤原委員	再犯防止計画は障がい者や高齢者などの計画の上位に位置づけられますか。再犯防止計画の目的が達成できれば下位の計画も達成できるということですか。

事務局	再犯を防止する要因は、様々な計画の内容に関連しているため、そのすべてを網羅する、という意味合いで障がい者や高齢者などの計画の上側に記載しています。重層的支援体制整備事業実施計画についても、下側の計画の支援対象の隙間にいる方も支援するという考え方で上側に記載しています。
秦委員	追加事項のひとつ「共に生きるまちづくり」は、これから高齢者が増える状況を考えて、とても大切だと思う。また、現行の重層的支援体制整備事業実施計画に記載のある調査結果は平成30年のものなので、現在は状況が変わっているはず。現状を調査して計画を作ってほしい。
大西委員長	再犯防止計画は地域福祉計画に包含され、各部門の個別計画と同列のものという認識でよいですか。
事務局	個別計画と同列に扱います。

(3) 今後の策定スケジュールについて

発言者	発言内容
事務局	事務局による説明
	(委員からの質疑なし。)
大西委員長	本日の3議事について承認の方は、挙手をお願いします。
	(出席した議員全員が挙手)
大西委員長	議題につきましては、承認されたものといたします。

3. その他

発言者	発言内容
事務局	次回審議会は6月に実施予定。議題は計画素案についての予定。次年度より「生活福祉課」の課名が「社会福祉課」となる。今後の案内は「社会福祉課」から行う。

以上